

「水」にこだわって半世紀。浄水器製造などを手掛けるOSGコーポレーション（大阪市北区）は、社会の課題を生活者の目線で掘り起こし、国内外の水問題と向き合うビジネスを実践してきた。中期経営目標の新たなキャッチコピー「ステハジ」には持続可能な社会を創る意思が込められているという。山田啓輔社長（49）に未来のビジョンを聞いた。

【聞き手・安部拓輝、写真も】

インタビュ
最前線

持続可能な社会に貢献

— 会社が生まれた1970年は人口が急増した時代ですね。

◆日本は高度経済成長を経て工場や家庭からの排水の問題に直面していました。大阪は琵琶湖淀川水系の最下流にあり、水道水は塩素の臭いがかつかった。創業者の湯川剛は23歳で家庭用浄水器の販売を始めました。5人5坪の会社でもおカネもないけれど「今はピンボ、未来はキボウ」が合言葉でした。産業の発展の次に必要なのは健康だという信念のもと、創業4年目で自社製品を開発。全ての顧客情報をコンピュータで管理するシステムを導入し、業界で話題になりました。98年にアルカリイオン整水器の発売を始め、アジア諸国で水

環境を改善する事業にも取り組んでいます。

— 担当者が定期的に浄水フィルターを取り替えに回っています。

◆代理店とも連携し、交換時期をお知らせしてお店やご自宅を訪ねます。浄水器はフィルターが命。つい先延ばしにして交換の時期が分からなくなりがちですが、責任を持って管理・点検をすることで長く使っていただけます。お客様によっては3世代にわたって愛用くださる方もいらっしゃいます。また、OSGの代理店の皆様と水宅配事業も手がけ「ウォーターネット」ブランドで全国展開しています。

業は？

— ほかに注力している事業は？

OSGコーポレーション 山田啓輔社長



◆浄水場の水処理能力が飛躍的に向上して水道水はとておいしくなりました。それを伝えていくために、大阪市水道局はマイボトルで無料給水できるウォータークーラーのスポットを増やしていますか？

◆出荷された野菜や飲料メーカーの製造ラインの洗浄に

OSGコーポレーション
1970年に創業し、浄水器メーカーとして成長を遂げた。一般家庭や飲食店、飲料メーカーでも扱う電解水素水をはじめ、衛生管理機器で生成する除菌水も手掛ける機能水総合メーカー。水宅配や水にこだわる高級食パン事業なども展開している。2021年1月期の連結売上高は102億円。従業員数は560人。

す。天王寺動物園や大阪城公園などに設置されているウォータークーラーはOSGの製品です。東京都営地下鉄や国立競技場も同様です。ペットボトルの廃棄を減らすことに加え、熱中症対策としてもニーズは高いです。

— 扱うのは飲み水だけではなく、除菌水も以前から力を入れていましたが、新型コロナウイルスの感染予防策として注目されて自治体や医療機関、小中学校などの需要が急増しました。今は除菌水を生産できる衛生管理機器に注目が集まっています。

高級食パンの「銀座」に志かわもOSGグループです。飲み水から衛生管理、そして次は水を「食材」と位置付けて、アルカリイオン水でパン生地を練ってきめ細かな味わいの食パンを生み出しました。全国で出店が続き、今月

やまだ・けいすけ 1971年生まれ。大阪経済大卒、94年入社。営業畑を歩み、家庭用機器の事業部を経て2013年に取締役。4月27日から社長。

◆取材して一言
私の幼少期には浄水器は珍しく「水道になぜこんな機器が必要なのだろう」と思ったがこの30年で時代は変わり、家庭の台所に見慣れた景色となった。OSGの創業当時には大阪万博が開催され、あと

4年で再び万博が巡ってくる。SDGs（持続可能な開発目標）の具現化に向け、同社は「TEAM EXPO2025」プログラムの共創パートナーとしてプラスチックゴミを減らす取り組みに参画する。山田社長は「次の時代を見据えた挑戦を始めた」と話している。

に計画から8カ月前倒しして100店舗を超えました。5年で200店が目標です。食パンは足掛かり。市場動向をみて他の「食」産業に展開を図る試金石にしています。

— 時代のニーズをつかむ発想はどこから生まれてくるのですか？

◆社員の名刺には名前の脇に「PPP部所属」とあります。プロダクトプランナーの略で全社員が新サービスや技術を企画する役割を担うことを表しています。全員経営の文化が発想の源。中期経営目標に掲げた「ステハジ」は文字通りの「捨て恥」という意味に加え、「サステイナブルをはじめよう」というメッセージも込めています。持続可能な社会を作るビジネスを社員一丸で生み出していきたいと考えています。